

# 遠野市の社会教育推進における ICTの活用に向けた『トライ』

- 1 ICT活用のきっかけ
- 2 これまでの取組等
- 3 今年度の「トライ」
- 4 「まとめ」に代えて

# まずは…自己紹介。

## 登壇者①

名 前：佐々木 一樹（ささき かずき）

出 身：岩手県遠野市

所属等：遠野市教育委員会 生涯学習スポーツ課  
主任兼社会教育主事

主な担当：社会教育全般  
学校と地域の連携・協働  
（コミュニティ・スクール）



## 登壇者②

名 前：嶋村 千春（しまむら ちはる）

出 身：岩手県陸前高田市

所属等：遠野市教育委員会 生涯学習スポーツ課 主事

主な担当：女性教育・高齢者教育・男女共同参画



# 1 きっかけ

令和2年1月に明らかになった「新型コロナウイルス感染症」



先が見えない中で、  
「つながり続けるために」  
「活動や学びを止めないために」



まずは  
やってみっか！

ICTの活用に「トライ」！

## 2 これまでの取組等について

令和2年6月

### 公民館主事等研修会

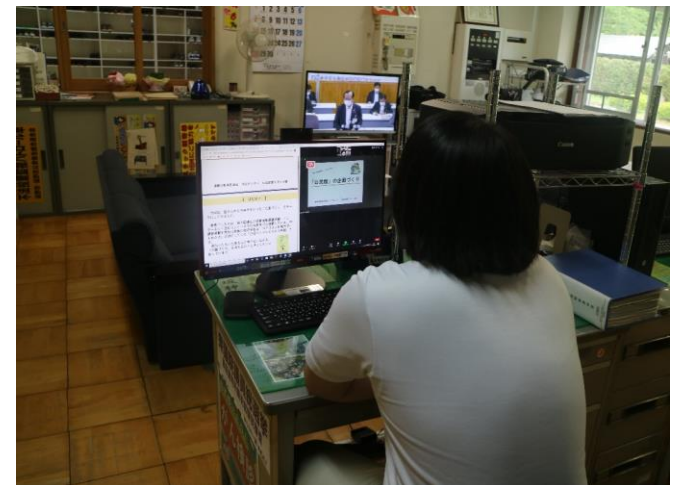
内部の研修会を活用し、一部の参加者の協力のもとオンラインと参集型のいわゆる「ハイブリット型」を試行。



- とにかく双方の通信状況に左右される。  
→ この日の内容は7割くらいしかわからなかったとの感想。
- 講演の方法ならまだよいが、話し合いに遠隔で参加するのは難しい。



市民相手に活用するための課題が浮き彫りに



令和3年1月

## 令和3年遠野市成人式「はたちのつどい」

新型コロナウイルス感染症がまん延し、成人式「オンライン形式」で（やむなく）実施。



- 「中止を覚悟していたが、オンラインでも開催してくれてよかった」との感謝の言葉
- 会場に行きたかったとの率直な想いも。



**「活動」や「学び」を止めないという点で  
有効な手法であることを再認識**



オンライン参加者………ありがとう



なつき  
大石 菜月さん  
遠野東中卒  
(山形県在住)

式の企画映像を見て  
親に感謝を伝えた

成人式中止も覚悟していましたが、オンライン参加という珍しい体験ができました。成人者から親へのメッセージ映像を見て、私も親に感謝の気持ちを伝えました。

両親へ

産んでくれて、健康に育ててくれてありがとう。これからも迷惑をかけるかもしれないけれど、よろしく！



はるき  
菅田 春樹さん  
遠野中卒  
(神奈川県在住)

オンラインで友達と  
成人式を楽しんだ

会場に行きたかった思いはありますが、オンラインでも参加できてうれしく思います。友達とオンラインでグループ通話をして、中学校時代の先生が出てきたときは大盛り上がりでした。

母へ

自衛官になる夢を応援してくれてありがとう。常にとしっかりと考え続けて、国民の力になれるよう努力します。

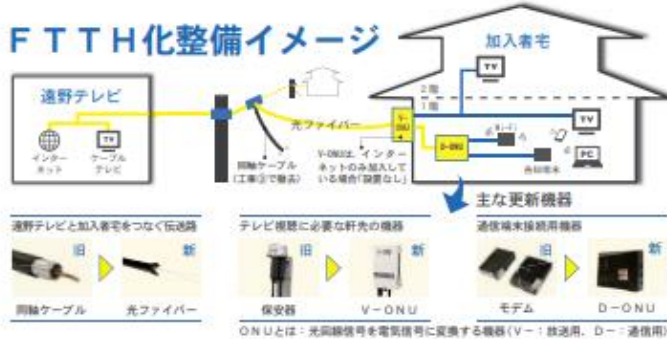
令和3年度

# ○ F T T H化整備工事の実施

市内全域に  
光回線が整備  
→環境整備が進む

## 遠野テレビ工事のお知らせ

### F T T H化整備イメージ



来年度3月までの工事完了にご協力をお願いします。

### 重要

**工事は3回に分けて実施**

遠野テレビ加入者宅の工事期間は約半年間で、各町ごとに作業区域を分け順次行われます。

遠野テレビの番組視聴とインターネット利用を継続するためには、工事が必須です。

**1** **引き込み工事**

9月中旬～2月下旬

放送路から光ファイバーを加入者宅の軒先まで引き込みます。個人敷地内で作業する場合があります。

引き込み工事前(左①)に届く「お知らせ」を確認ください

引き込み工事が始まる前に、遠野テレビから加入者へ「お知らせ」が発送されます。内容の確認をお願いします。

**2** **宅内工事**

10月中旬～2月下旬

加入者宅内の既存設備を光化対応機器に更新。動作確認などを行います。※加入者の立ち合いが必要です。

宅内工事は電話で日程調整

宅内工事の日程を調整するため、コールセンターから加入者に電話で連絡します。工事が円滑に進むよう、連絡があった際は対応をお願いします。

**3** **撤去工事**

1月中旬～3月中旬

遠野テレビの既存放送路や引き込み線などを撤去します。作業中、通行を規制する場合があります。

※切り替え工事に伴い、遠野テレビのサービスが利用できない期間が複数発生します。詳しくは、工事開始前に届くお知らせで確認ください。

※工事は無料ですが市の委託業者が行います

※不明な点は下記に問い合わせください

### 工事は遠野テレビ加入の全軒

対象は市内6,800世帯、500事業所

※光回線整備済みの宮守町と小友町を除く

#### FTTHって何？

光ファイバー伝送路(光回線)を使った通信サービスで、Fiber to the Homeの略称。光回線は、遠野テレビの既存放送路よりも、速くて大容量の通信通信を可能にするものです。本市では、遠野テレビから加入者宅に光回線を手直埋引き込み方式でFTTH化整備事業を進めています。

#### なぜ整備するのか

現代は、あらゆる場面で情報通信技術が活用され、その技術は高度に発展、高度情報社会とも呼ばれています。また、

コロナ禍でテレワークの需要が増えたり、オンライン授業が行われたりするなど、社会も変化、情報通信技術も有効に活用するためには、高速・大容量で安定した通信環境が求められます。インターネットサービスのほか、遠野に定着した情報を発信している遠野テレビの放送は、市内全域に及びます。しかし、伝送路の同軸ケーブルは老朽化が進むことから更新が必要となっています。同テレビの伝送路を光回線に変え、マシな情報ネットワーク化の整備や高度情報社会に対応した情報の発信、発信機

### FTTH化整備工事のメリット

#### 期待される整備効果

- 情報通信の高速・大容量化  
通信速度が速くなり、オンライン学習やテレワークの情報整備につながる
- 新しい放送への展開  
H.264やH.265、多画素によるIP放送展開の可能性が高まる
- サービス環境が安定  
災害時などの通信・放送の確保リスクが減少、安全・安心な環境の提供につながる
- スマート社会実現の基盤に  
ロボットなどを活用したスマート農業やセンサーによる災害情報収集など、スマート社会実現への基盤となる

進行中

## F T T H化整備工事

遠野テレビの伝送路が光回線に変わる

市は、▽自然災害時の通信伝送▽新型コロナウイルスによる新しい生活様式「」に対応できる通信データの高速・大容量化、安定した放送環境の整備に向け、FTTH化整備工事を進めています。整備概要や工事日程などを紹介します。



## 現 状

### ○いわゆる「ハイブリット型」の研修を受けることの増

→ ICTの活用に対する抵抗感は減っている。

### ○「FTTH化整備工事」により、通信環境が改善

→ 地区公民館を含めた社会教育施設もその恩恵が

→ 社会教育施設への「free Wi-fi」の整備も進んだ

### ▲ 仕組みを理解している人材や技能を持った人材が限られている

→ 異動によって、人材がいなくなることも。

→ 「ハイブリット型で企画する」というイメージを持つことが難しい。

**ハラスメントを防ぐため、  
正しい知識と常識を身につける  
研修会を企画するように！！**

- 多くの人が学べるように、オンライン形式講座にチャレンジしてみよう。
- サポートに回って、「できる」人を増やそう。





### 3 今年度の「トライ」

#### (1) 「できる」ための手順イメージ

① 必要性の共有・共感  
(やらなきゃいけない)

② 「どうやるか」を  
言葉で覚える

③ 意識しながらやる (= やってみる)

④ 習熟するまでやり続ける

「支援」と「助言」を  
活かして

## (2) 「どうやるか」を言葉で覚える

令和4年10月

県立生涯学習推進センター主催  
「ICTスキルアップ研修」を職員が受講。

受講した職員は、「どのケーブルがどんな役割を持っているのか」すら知らない職員



受講後は、知識として（おぼろげながら）理解するとともに、「負担感」が減少した。



令和4年11月

「やってみる」ことに向けた内部勉強会の実施



# (3) 「やってみる」

令和4年11月

市消費生活センターのオンライン講座の依頼  
→ 「テスト」として取り組むことに。

○市消費生活センターの担当者から「18歳成人に関する講座をしたいけれど、高校で時間を取ってくれないので、市で動画を作成したい」との相談



ハラスメント講座に向けた「テスト」として実施  
→ 生涯学習推進センターの高橋社会教育主事のご指導もいただきながら



令和5年1月

ハラスメント研修の収録・編集

2回目ということもあり、準備等もスムーズに。

## (4) 「成果」と「課題」

### ○仕組みを理解することで機材の取扱いに対する抵抗感の減

→ 「どのケーブルを触れば良いか…」の迷いがなくなる

### ▲ 習熟に向けた実践を続ける機会づくり

### ▲ 他の取組から学び続ける（技術を盗む）意識づくり

→ 「やり続けること」「試行錯誤すること」で「できる」ようになるので、意識的に触り続けること。

→ 予算がないなら、機会を捉えて、技術を持っている人から「盗む」こと。

## 4 「まとめ」に代えて

デジタルのアナログの「ベストミックス」による  
豊かな学びの創造と住民の可能性を引き出す



- 「学びを通じて、人を作る」  
→ 「デジタル素材」を蓄積していく。
- 「デジタルを活用したつながりを作る」  
→ 活動や学びを止めないという強い想いを持つ。
- 「地域づくりにつなげる」  
→ スマートフォンやパソコンのICT機器は、  
もはや文房具と同じ位置づけという意識を持つ。

基盤となるのは、社会教育関係者のICTスキル



ご清聴、ありがとうございました。